

令和3年度(2021年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標とグランドデザイン 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」	B	臨時休業や分散登校、全面オンライン授業等への対応スキルは、学校全体として段階的にレベルアップを図ることができた。来年度以降も引き続き教科の枠を超えた協力体制の構築に取り組む。活動制限がある中で、諸活動の実施について、生徒同士・生徒と教職員・教職員同士が協働して、対話を重ねることで、内容等を工夫して実現できたものがあった。地域とのつながりを更に模索し、本校のブランディングに繋げていく。
松本美須々ヶ丘高等学校「3つの方針」			
目指す学校像 地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校 DP:生徒育成方針 グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。 CP:教育課程編成・実施方針 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。 AP:生徒募集方針 基本的生活習慣が身につけており、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。			
令和3年度(2021年度) 重点目標 (平成30年度～令和4年度 中期目標)			
(1) 多様な進路希望に対応できる教科指導と進路指導の充実により、生徒一人ひとりの進路実現を保証する。 (2) 学習活動・課外活動・部活動など様々な場面で課題を発見し、その解決のために生徒自らが目標を設定し、主体的・意欲的に学び、取り組む姿勢を育成す (3) 地域や国際社会に目を向けさせ、校外でも積極的に活動することで、社会性やコミュニケーション能力を高めさせるとともに、地域の期待に応える「地域の中の学校」づくりを進める。 (4) 積極的に情報を発信することで、家庭との連携を図り、複雑化する社会・家庭環境に柔軟に対応できる安心安全な(体罰やいじめなどのない)学校づくりを進める。 (5) 「言語活動」を充実させ、的確な言葉を用いて、論理的かつ自由に思考し表現しながら、異なる他者や多様な立場を理解できる多角的な視野と品格を育む。 (6) いかなる環境下においても生徒の学びを止めないため、また、これからの社会に必要な資質・能力を育成するため、ICTを積極的に活用した学習方法を確立し、家庭と協同して学習面、生活面、精神面の支援に努める。			

Ⅱ 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務	(1) (2) (3) (4) (6)	①授業や諸行事、会議等が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・公開授業、体験入学、webページの更新、中学校訪問、連絡メール配信などが効果的に行われたか。	①	B	コロナの影響で年間計画の中止や変更を余儀なくされることが多かったが、大きな問題がなく現在まで来ている。体験入学は今年度並みの人数を予想すると方法の改善が必要である。	この先も臨機応変に対応していかなければならないことが多く発生する可能性があるので、当初計画を慎重に立て、また柔軟に対応する必要がある。 HPの新たな発信方法の検討。
		②関係各署と密に連絡を取り合う。	・校内研修の充実を図れたか。 ・会議の効率化を図れたか。	②	B	タブレット導入についてはWT※に負担を掛けた。 ※ワーキングチーム:校内ICT活用推進チーム 職員会の日程を見直す必要がある。	WTについては分掌上見直す。 年間の中での職員会配置を慎重に考える。
		③今年度以降の様々な改定による諸課題に迅速に対応するよう努める。	・日課変更4年目にあたり、十分な検証が行えたか。	③	B	今後検討していく必要がある。	テスト日課については見直し実践する。
		④安心して通える学校づくりに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。	④	B	駐輪場での事故発生を教訓に、更に細部にわたり常に点検・補修を行う必要がある。 今年度1学年の探究学習で生徒による校内安全点検を実施できた。	生徒の視点での情報収集も行い、安全管理に努める。
		⑤新型コロナウイルス感染症対策に伴う体制づくりを各署と連携して進めていく。	・生徒に不利益とならないよう、関係各署と連携し、行事予定の再構築等、計画・実行できたか。	⑤	A	新型コロナウイルス感染症対策は継続して生徒にも呼びかけをしていく。発生時の対応の準備も常に行うようにする。	県からの指示など迅速に対応し、学校クラスターが発生しないようにするとともに、オンラインの準備などもさらに進めていく。
進路指導	(1) (2)	①生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	・個人面談、LHR、学年集会、学年の日、などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路の選択をする機会や資料を与えることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	①	A	・年度当初の計画に基づいて、コロナウイルスの感染防止の方策をとりながら、生徒の意欲喚起を促したり進路選択の機会を与えたりすることができた。 ・2学年では計画に加えて外部講師による講話や模擬試験も行った。	コロナの感染状況を見ながら学年全体での集会や行事も計画し直し、より効率的な生徒への働きかけができるよう考える。
	(1) (6)	②予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 ClassiやGoogle Classroomの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭での学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間の目標1時間30分を確保させるための指導ができたか。 ・ClassiやGoogleClassroomを生徒に活用させ、学習の意欲を高めることができたか。	②	B	・定期考査前を中心に、Classi や調査用紙を使った学習時間調査を行うことで、学習時間確保の意識を持たせようとしたが、生徒の取り組み様子はまだまだ不十分である。 ・定期考査前に学習室を設定し、信州大学生に学習支援をもらった。 ・ICTの活用は進んでいる。	動画の配信は必要に応じていつでも可能なように準備をしていく。 家庭学習についての把握と指導にとりくむ。

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
進路指導	(1)	③生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、教科や学年に助言と協力を求める。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。	③ B	・模擬試験の結果は学年内で共有したり教科へ回覧したりして、生徒の指導に役立てることができている。	職員会、学年会、教科会などで、生徒の情報を共有する機会をできるだけ多く持つ。2、3年生は定期的な進路検討会議を持つことも考える。
	(1) (4) (6)	④大学入試やコロナの影響などの情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、生徒が不利になることがないように適切な対応をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会で職員に連絡したり保護者への発信をしたりしたか。	④ A	各学年で定期的に学年通信を発行し、生徒だけでなく保護者の目にも届くようにマメールやClassiで発信するなどの工夫をしている。	さまざまな情報形態の中から取捨選択して、生徒に最もわかりやすく伝わりやすい形で提供するように努力する。
生活指導	(3) (4)	①生徒に挨拶、交通マナーの徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	①社会や学校のルールを確認させ、遵守させる指導ができたか。生徒が事故を身近に感じる交通安全指導ができたか。	① B	スケアードストレイトを実施でき、生徒の交通安全、自転車のマナーなど意識を高めることができた。毎月、職員の立ち番指導で自転車マナーの注意など行っている。事故件数は10件と昨年度の同じ時期の16件に比べ減少している。	年間交通事故件数は昨年度の21件に対し、本年度は現在までで18件。スケアードストレイトを実施して生徒の交通安全への意識を高めたことが減少した要因の一つと考えられる。生徒が今までのように安全に注意し交通マナーを守れるよう、意識付けを行う。交通マナーへの苦情についても3から4年前に比べ減少。
		②生徒とのコミュニケーションや家庭との連携を密にして信頼関係を築く。	②HR指導、頭髪指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて意見に耳を傾け、的確に対応できたか。	② B	各学年が学年通信、メールの配信などで、学校の様子などきめ細かな指導を行っている。生徒指導でも立ち番指導の場所を、外部の方からの連絡を受け追加して指導している。	メールの配信や学年通信で家庭への連絡をきめ細かく行ってもらえた。校内の巡視指導を行っているが、現金盗難はなくなる。11月・12月に5件発生した。生徒への注意喚起するとともに、貴重品袋の活用も考えていく必要がある。
		③職員がアンテナを高くして、生徒の小さな変化にも気づき、初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。特にSNSの使い方について、生徒に注意を喚起し、適切に指導できたか。	③ B	SNSの使い方とマナーについて、1年生は入学してすぐに行う必要性を感じた。LINEに関わるトラブルが、4月早々に発生した。学年と生活指導ですばやく対応して、大事には至らなかった。その後も注意深く観察している。	SNSの使い方と問題となったトラブルにつながるケースで、LINEよりインスタグラムの方が増えている。時間がたつと消去される機能を使っているため指導には入れないケースもあった。1年生は入学してすぐに使い方とマナーについて警察のスクールサポーターの協力を得て、研修を行う必要性がある。
生徒会	(2) (3) (4) (5) (6)	①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。	① A	双蝶祭やクリスマスマッチなど、コロナ禍での新しい形での生徒会行事や生徒会が関わる活動において、生徒が主体的、実践的に取り組めるよう支援することができた。	新体制においても、これまでの活動を参考にし、新しい発想を引き出せるよう支援していく。
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。	② B	・福祉施設でのボランティアや盲学校との交流など、コロナ以前のような地域と関わる活動は今年も出来なかった。コロナ禍で地域との連携を図る方法を今後検討していきたい。一方、双蝶祭の一般公開では、保護者を含め家族に來校いただき、生徒の活動を見ていただくことができた。 ・「豪雨災害義援金」の募金活動や、校外清掃に積極的に取り組むことができた。	・社会福祉協議会と連携を図るなど、コロナ禍においても広く社会へと目を向け、自らが主体的に興味関心を持って関わることでできる可能性を模索していく。
		③健全で自由に活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由に活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。	③ B	コロナ禍で制限はあるが、できる範囲で活発な活動を推進することができた。	活発な活動のためのヒントとなるようなアイデアを提供するとともに、生徒との協働を図る。

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
生徒会	(2) (3) (4) (5) (6)	④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。	④	B	役員が60人を超える大所帯のため、役員全員が円滑なコミュニケーションを取ることは難しいが、情報を共有すること、顔を見て直接話をするなどを意識して行うことで、視野を広げ他者を尊重する姿勢の涵養に繋がると考え、機会あるごとに働きかけを行った。 ・オンラインで開催された「高校生ICTカンファレンス」において、テーマについてプレゼンテーションを行った後、他の参加者と交流し、テーマについて理解を深め、その成果を生徒会役員間で共有する場を作ることができた。	地域や未知なる分野へ興味関心を持てるようなきっかけづくりを継続して行い、各自が得た情報や考えたことを共有する場を多く設定し、視野を広げ他者を尊重する姿勢を今まで以上に養えるように工夫を図りたい。
		⑤コロナ禍で生徒会活動や部活動が制限される状況において、生徒が前向きに取り組み、コロナウイルス感染防止対策をしながらの新しい生徒会活動を作り上げていけるよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。	⑤	A	・コロナウイルス感染防止対策のため、Googlemeetを利用し密にならないよう役員会を開いたり、クラスマッチでの消毒等新たな形で活動を行うことが出来ている。 ・新体制になり、「文化祭ガイダンス」といった他校との交流ができる研修会に参加した生徒が、その報告のプレゼンテーションを行い、役員間で他校の様子等を共有する機会を増やした。	これまでの活動が生かせないことが多いので、熟議の場を設け、役員が自ら考え、意見を述べる機会を作ったり、他校の様子や学校以外での取り組みなどの情報を提供したりすることで、コロナウイルスの感染防止対策をしながらの新しい生徒会活動の構築を進めたい。今後、役員による双螺旋ミーティングを行い、コロナ禍での新しい文化祭の形が構築できるよう支援していきたい。
探究指導		①各教科・科目、特別活動等で学習した知識や技能を総合的に活用し深化させる。	・様々な学習活動を通して生徒が社会とのつながりや生き方について考える機会になったか。	①	B	新型コロナ感染拡大の影響により、学習時間数が減ったり、活動の内容や範囲が制限されたりしたが、学習内容については概ね計画通りに進めることができたとして自己評価する。	世界や地域社会の実情を知らないから問題意識が芽生えない、多種多様な生き方や働き方に触れないから夢や憧れを抱きにくいのではないかと。生徒の心に響く教材や授業方法を研究する。
		②学校生活や地域社会の中から、自ら課題を見つけ解決する能力を育成する。	・外部との連携による様々な学習活動を取り入れることができたか。	②	B	関西方面での現地調査、同窓生による講演会など、断念せざるを得ない企画があった。一方で、回数は減ったが、周辺地域でのフィールドワークを継続実施した。今年度は新規に松本市社協と連携して社会福祉活動スタートアップ講座を企画実施した。	地域人材の活用が鍵と思われる。地域人材と学校をつなぐ役割を担う。今年度はこのような状況下、同窓生による人材バンクの構想も具現化できなかったが、来年度も引き続き、同窓会やPTAとの様々な形の連携を模索する。
		③主体的かつ探究的に学ぼうとする意欲や態度を育成する。	・生徒が主体となった探究的な学びを充実させることができたか。	③	B	クラスの探究係を中心に、生徒が自らがファシリテーターと進行役となり、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。	主体的で探究的な学びには生徒が興味関心と熱意を持って取り組めるような課題やテーマの設定が欠かせない。そのための研究を重ねていく。
		④グループワーク等の協働を通じてコミュニケーション能力を育むとともに、プレゼンテーション等を通じて表現力を身につけさせる。	・発表会等の表現活動を発揮する機会を設けることができたか。	④	B	1年間の学習成果を講座・クラス・グループ単位で発表した。さらに選抜された者は2月の「MISUZU探究フェスタ」で発表を行う。また、外部と連携して、よりよいプレゼンテーションのためのワークショップを企画実施した。	研修旅行中に計画されていた現地でのフィールドワークが中止となったことで研究テーマの変更を余儀なくされ、さらに、授業時間数が減ってしまった影響もあり、中間発表ができなかった。あらゆる事態を想定し、柔軟に対応できるよう、学習計画を立案する。

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
情報処理	(4) (6)	①使いやすさとセキュリティの高さという相反する目的を達成するため常時ネットワークの運用管理に心を配る。	・グループウェア更新の為に新しい知識を理解習得し、応用できたか。	①	A	グループウェア(C4th)の導入・更新は達成できた。他校に比較しても、本校の取り組みは標準よりは進んでいると思われる。また、校内でのセキュリティ研修については現在検討中であるが、非違行為防止委員会とも連携してマニュアルの一部見直しを行った。	C4thの利用価値の上がるように、さらにサイト内のコンテンツを充実させてゆきたい。そのため情報処理部内の先生方やワーキングチームとも連携して、情報共有を行ってゆきたい。
		②今年度よりG Suite for Educationの導入や県内の内部事務システムおよびグループウェアC4th(シーフォース)が導入されたので、その対応をする。先生方への周知および、連携をとる。さらなる校内のICT化に向けて研究を行う。	・年1回程度を目標に職員向けの校内セキュリティ講習や、新システム導入講習等を実施し、セキュリティ意識・技術の向上や、新システム稼働に向けて技能の向上をはかる。	②	B	さらに、強歩大会においては例年通りバーコードによるゴール集計業務を行い、コロナ対応の為にプログラムの一部変更にも対応することができた。	
図書視聴覚	(2) (4) (6)	①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。	①	B	電子黒板をはじめとするICT機器、今年度はHR教室にWi-Fiが設置されたことで今年度の分散登校にリモート授業を実施して生徒の学びを支援した。	HR教室だけでなく他の教室にもWi-Fiが設置され、より充実した教育活動を行うことができた。また希望する生徒にタブレットを貸与し学びの機会を増やした。
		②ICT機器導入により授業におけるICT機器活用方法の研究を進める。	・授業におけるICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。	②	B	リモート授業実施にあたり、ICT機器の活用方法を職員間で共有することができた。	今年は職員間での研修は行わなかったの以来年度の課題としたい。
		③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。	③	B	文化祭、生徒総会では生徒会と連携してリモートで行い、運営に協力することができた。	来年度も関係部署と連携していきたい。
保健教育相談	(2) (4) (6)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握し、情報を共有し、チーム支援ができたか。	①	B	学年会で出た生徒動向について係でも共有し、カウンセリングなどにつなげることができた。各種検診も計画通り実施することができ、また強歩大会においても健康状況の把握や共有ができた。	保健室が心のよりどころになっている生徒も複数人見られる。係としてもそれらの生徒の情報は共有するが、今後も継続して担任や保護者と共有し、心身の成長を促していきたい。
		②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握し、家庭や外部機関とも連携していく。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。	②	B	生徒の心身の状況を把握し、学年で共有することや担任面談の材料として活用できた。また、医療や発達障害サポートマネージャーにつなげることができた。スクールカウンセラーの活用も生徒保護者合計48名の実施を行うことができた。(1/14現在)	カウンセリングを実施する時間数が年々増加傾向にあり、来年度も本年度並みの時間数の確保が必要と感じている。
		③新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかりと行い、校内での感染予防に努める。	・新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかりと行うことができたか。	③	B	保健委員会の呼びかけを継続して実施できた。感染者が一時期に比べ減少し、緩みの部分はあるが教室の換気やマスク、手指消毒などを今後も促していきたい。	保健委員会の活動だけでなく教員による注意喚起や教室の換気も今後も継続してほしい。

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
清美	(2) (4)	①清美委員会と協力し、ゴミの分別・可燃ゴミの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ゴミの分別徹底により、可燃ゴミの削減ができたか。	①	B	①可燃ごみ R2年(4-11月)2,480kg(37,200円) R3年(4-11月)3,270kg(49,050円) コロナ休校があったため単純比較はできないが、今後も分別を徹底し、可燃ごみ削減を目指す。	①コロナ・衛生面から、生徒が各分担区から出たごみをごみ袋に詰め替える収集方法に問題があるように感じる。近隣校のように専用の容器に入れ、業者に学校まで収集にきてもらえる方法に変えたい。引き続き、事務・校用の先生と相談し、方法を模索していく。
		②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ゴミ回収、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換などの清掃計画は適切であったか。 ・校舎内外の清掃はきちんと行われていたか。	②	B	②予定されたゴミ回収、大掃除、ワックスがけ、モップ交換等は、計画通り実施できた。年度末のカーテン交換も、計画通り行う。 ②校外清掃が実施できなかった。落ち葉の落ちる時期と、生徒会役員切り替えの時期が重なってしまった。	②校外清掃は、事前に計画を立て、新旧役員共同で行う。
渉外	(3) (4) (6)	①学校と保護者・同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行なう。	・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることができたか。	①	A	本年度も、PTA総会が中止、書面評決となったため、書面により意見質問の集約・反映につとめた。	
		②PTA総会・評議員会・地区PTAとも、新型コロナウイルス感染防止のため参集が難しい場合は、速やかに代替の措置を立案し、会員に周知する。	・新型コロナウイルス感染防止のため参集できなかった会合の代替措置は適切であったか。	②	B	夏にかけて、コロナの状況が急激に悪化したため、周辺の学校の状況も参考に、PTA会長と相談し、本年度も地区PTA懇談会中止の決定をした。生徒を通じて学校活動の資料配布、書面による意見集約、意見の検討・反映に努めた。	特に地区PTAについては、参集しないと次年度の役員決めが大変であるという意見も多く寄せられ、現役員の方に大変ご苦労頂いた。次年度も実施できないと、参集しての懇談会を知っている方がいなくなるので、来年度は是非参集できたと思う。
1 学年	(1) (2)	①基本的な生活習慣を確立し、家庭学習も含め継続的な学習を身につけるよう指導する。同時に部活動等の課外活動との両立を目指し、そのための自己マネジメント力の向上を図る。	・Classiのポートフォリオ等を積極的に利用し、計画性を持った生活スタイルを立て、充実した学習活動および部活動ができるよう指導できたか。	①	B	Classiのポートフォリオや学習記録等を積極的に活用し、計画性を持った学習を促すことができた。しかしながら、未だ自ら計画を立てるところにまで至らない生徒も多くいるため、部活動との両立も合わせて指導を継続したい。	さらに、多くの生徒が計画性を持ち充実した学校生活が送れるように指導を継続していきたい。
	(4)	②学年通信・学級通信等も含め積極的に学校からの情報を発信し、家庭と協力することで生徒の安心安全な生活をサポートする。	・家庭と連絡を密にし、生徒個々の状態を把握することができたか。	②	A	学年通信では、学校の様子だけではなく、大学等の進路情報をわかりやすく伝えることができた。加えて、Classiの機能を活用し、生徒の考えたこと、学習や行事の取り組み状況などを共有することができ、保護者からも好評であった。	学年通信は、学校からの情報発信として引き続き有効に活用していきたい。また、様々な問題を抱えた生徒が増えてきていることを踏まえ、保護者と連絡を密にすることで、生徒の安心安全な生活をサポートしていきたい。
	(5)	④探究型学習の内容を計画性を持って進め、2年時の研修旅行へと繋げていく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	③	B	探究のプロセスの「課題の設定」や「情報収集」の方法を学ぶことができた。興味関心がある分野であっても、現時点では知識等情報が少ないことが課題である。 また、自分の研究成果を1人1人スライドにまとめ、グループやクラスでプレゼンテーションをすることができた。	今後の探究的活動をとおして、様々な情報から豊かな知識を得て、問いに対する解を導き出せるよう指導する。また探究フェスタに向け、生徒の活動が活発になるよう支援する。 来年度は研修旅行も絡めた課題設定や研究方法を検討していく。
	(6)	⑤急な臨時休校などを見越して、ClassiやGoogleClassroomなどICTを日頃より積極的に学習活動・HR活動に活用していく。	・臨時休校を想定して、連絡メールや学年通信・学級通信、授業動画配信などを計画性を持って準備および実施できたか。	④	A	分散登校、臨時休校におけるオンライン授業は、日頃の授業でもGoogleClassroomを積極的に取り入れていたため、各教科との連携や対応もスムーズに行なえた。保護者への連絡については、急な変更等もClassiを使い速やかに対応することができた。	今後も急な休校等が想定されるため、いつでも対応できるように準備を進める。また、オンライン授業の「授業内容の質」が落ちないように引き続き研究する。

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
2 学 年	(1) (4) (5) (6)	①生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築き安定した状態で学習に打ち込めるようにする。	・各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。	① B	コロナ禍で休校、オンライン授業(SHR)の学校生活では生徒、保護者との連絡を密にして送ることができた。今後も敏速な対応ができるよう備えていきたい。貴重品の管理をたびたび注意してきたが、徹底できず、盗難被害が起きてしまった。	生徒・職員もタブレット使用が本格的になることからよりスムーズな体制が取れるかと思われる。ソフト・ハード面共により使いやすく支障なく行える環境をつくる必要がある。盗難の事例も発生し、貴重品の管理についてはSHR含めて事あるごとに注意喚起を促していきたい。
		②入試改革に向け各自が積極的かつ詳細にわたる進路選択を行えるようにする。	・生徒の進路希望について相談にのり、適切な情報を提供できたか。	② B	生徒と担任との情報提供はできている。ただコロナの影響で進路関係の講演会、研修等が実施できない状態であった。今後3年科目選択決定も含みながらの状況をみて実施できればと思う。	入学時よりコロナの影響で進路情報の提供が思うように行えなかったことから来年度に向けてそれに補えると共に情報提供と意識付けを行っていきたい。
		③探究型学習の内容を秋の研修旅行と結びつけながら計画的に進めていき、「探究フェスタ」へと繋げていく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	③ B	10月の関西方面への研修旅行が中止になった関係で研究テーマの変更を余儀なくされた生徒が多い。今後フェスタへどう繋げていくかが課題となる。	2時間連続で外部へ調査を行ったことによりアンケートやデータ収集等ができたことは有効であった。情報収集がネットだけと言う生徒がほとんどであることは今後の課題である。
		④緊急事態時の休校に備えてGoogleClassroom等をスムーズに活用できるよう研修をし準備する。	・休校時におけるSHR(出席確認)や連絡メールや学年通信、授業の動画配信など、計画的に実施できたか。	④ A	9月より始まった「オンライン授業」は細かい部分での課題はあるがおおむね順調に実施できている。	生徒・職員もタブレット使用が本格的になることからよりスムーズな体制が取れるかと思われる。ソフト・ハード面共により使いやすく支障なく行える環境をつくる必要がある。
3 学 年	(1) (2) (4) (5) (6)	①大学入試共通テストをはじめ、さまざまな入試、進路情報を提供しながら、生徒一人ひとりの進路実現の具体的なプランと実践を支援していく。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。 ・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。	① B	進路通信の発行や個別の面談を行うことで生徒一人ひとりの進路実現をサポートした。多様化する入試方法にも対応できるように情報を収集し共有した。	共通テスト対策を授業の中でも工夫しながら指導したい。
		②安心して学習活動や学校生活を送れるように環境にも配慮し、充実した高校生活を送れるようにサポートする。	・学年を中心に学校全体で生徒の支援が出来たか。	② B	日常生活の中でも生徒との会話を大切にした。	
		③コロナ禍の影響による不安や心配をできるだけ減らすように心掛け、生徒の心理面でのケアに留意し、協力し合う。	・各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。	③ B	生徒の体調を優先しながら、コロナ禍の不安を払拭するように心掛けた。個人面談の機会も増やして実施した。	不登校の生徒に対して、一層の教員間の情報共有と連携する必要がある。
		④探究型学習を通して、自分の進路を考察し、積極的に社会を形成する意識を育てる。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	④ B	進路実現を図るために有効に活用しようと工夫した。主体的に取り組む姿勢も見られるようになった。	
		⑤緊急事態等に備えた対応を考え、GoogleClassroom等をスムーズに活用し、研修、実践していく。	・臨時休校を想定して、連絡メールや学年通信・学級通信、授業動画配信などを計画性を持って準備および実施できたか。	⑤ B	試行錯誤をしながらも緊急時の対応を行った。また、GoogleClassroomを活用しながら探究学習を進めた。9月より始まった「オンライン授業」は細かい部分での課題はあるがおおむね順調に実施できた。	